

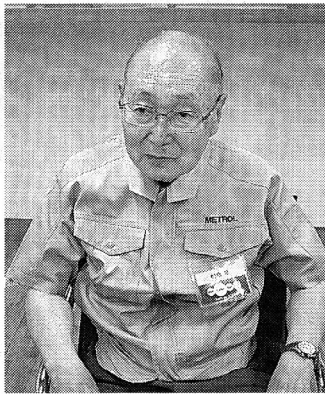
起業人

工作機械の刃先検出センサで世界シェア7割を握るメトロール(東京都立川市)。今では国内大手工作機械メーカーが軒並み採用し、取引先も64カ国にまで広がったが、ここまでの道のりは険しかった。大手メーカーで計測器事業の責任者などを経験した会長の松橋章が52歳で独立。事業が軌道に乗らず売却を検討したほか、製品を巡って大手企業との対立も経験。血のにじむような苦闘の末に世界のニッチトップに登り詰めた。

「そこまで言うなら、一緒にやるか」。松橋が大手計測器メーカーの関連企業で取締役を務めていた1976年。かつて

旋盤の刃先、精度の番人

●メトロール会長● 松橋 章氏



1947年(昭和22年)東京大学工学部卒業。1976年(昭和51年)メトロール創業。2009年(平成21年)代表取締役会長に就任。東京都出身。86歳

格安センサー世界制す

の部下から起業したいと相談を受けた。業績不振でリストラされることになり、自ら起業するしか道がないという。松橋は待遇面での不満はなく、辞める必要はない状況が続く。ただ、慕ってくる部下を見捨てられないという義きょう心と、大手メーカーの技術畑で培った「自分の力を試してみた」という気持ちで松橋を突き動かした。

最初は3人で計測器を受託開発する会社を立ち上げた。だが、創業からの5年間は鳴かず飛ばず。営業は松橋が兼務し、顧客を回って特注の計測器を受注。設計して完成分かっており、自ら起業したものを納めると、次の発注を求めて走り回る。「経費ばかりがかさんで、まったくもうから式センサーを開発。刃先がボタンに触れるだけで、刃の摩耗や、熱膨張による位置のずれを検出できるのが特徴だ。生産の自動化に大きく寄与することから日立精機(現森精機製作所)での標準製品の類似性を指摘。最後に「国内ベンチャーの発展を」と訴えた。松橋が最近喜んでるのは、かつて大手計測器メーカーで机を並べた後輩が、メトロールの門をたたいてやってくることで、「安くていいものと一緒に作らせてほしい」。

1000種類にわたる製品ラインアップと、300万回ボタンに接触しても1000分の1の誤りが出ない正確なセンサーと比べて10分の1

同じ製品を見つけた。製造元の大手制御機器メーカーの担当者に詰め寄ったが、「国内産業は互いにコヒーシ合って成長してきた」と聞き直るばかりで、ちがいが明かない。このままでは会社の存亡にかかわると危機感を抱いた松橋は、創業者への直訴に打って出る。無たエンジニア根性は健在だ。今でも新製品のアイデアが思い浮かべば「夢」を打ち明けた。メトロールが手掛けている製品の説明や、互いの設計図に向かっている。卓司社長は証言する。松橋自身も「自分が思い描いたものを形にするのが楽しい」と子どものような笑顔をみせる。

松橋が最近喜んでるのは、かつて大手計測器メーカーで机を並べた後輩が、メトロールの門をたたいてやってくることで、「安くていいものと一緒に作らせてほしい」。

1000種類にわたる製品ラインアップと、300万回ボタンに接触しても1000分の1の誤りが出ない正確なセンサーと比べて10分の1

人に事業売却を相談していた矢先、起死回生の受注が舞い込む。旋盤用の刃先センサーの開発だ。当時の技能者が刃物を交換するごとに刃先の位置を定めてから加工するのを主流。手間がかかるため、生産効率が落ちる主要因の1つだった。そこでボタン型の機械式センサーを開発。刃先がボタンに触れるだけで、刃の摩耗や、熱膨張による位置のずれを検出できるのが特徴だ。生産の自動化に大きく寄与することから日立精機(現森精機製作所)での標準製品の類似性を指摘。最後に「国内ベンチャーの発展を」と訴えた。松橋が最近喜んでるのは、かつて大手計測器メーカーで机を並べた後輩が、メトロールの門をたたいてやってくることで、「安くていいものと一緒に作らせてほしい」。

1000種類にわたる製品ラインアップと、300万回ボタンに接触しても1000分の1の誤りが出ない正確なセンサーと比べて10分の1

敬称略 (中谷庄吾)